



とびっくす

No.124

(本誌はホームページでもご覧いただけます。 <https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>)

令和7年度春季ヤマトシジミ資源量調査結果 ～宍道湖ヤマトシジミ資源の減少傾向が鈍化 漁獲対象のシジミ資源は高水準を維持～

島根県水産技術センター内水面浅海部では、毎年6月(春季)と10月(秋季)に宍道湖に生息するヤマトシジミ(殻長2mm以上)の資源量を推定するための調査を行っています。今年度の春季調査を令和7年6月9、10、12、13日に実施しましたので結果を報告します。

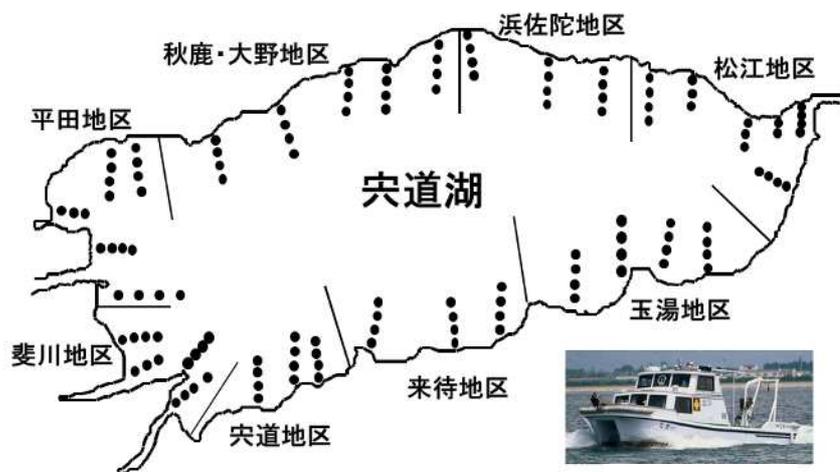


図1 調査地点

試験船「ごず」

調査方法

図1に示す調査定点(126ヶ所)において試験船「ごず」を使用し、スミス・マッキンタイヤ採泥器で各定点2回(面積0.1m²)、湖底の砂泥と一緒にヤマトシジミを採集しました。採集した砂泥サンプルは、フルイでヤマトシジミをサイズ別に選別し、生息密度と水深別の漁場面積から宍道湖全体の資源量を算出しました。

調査結果および考察

令和7年度春季のヤマトシジミの資源量(表)は約3.5万トン、約1,542億個が生息していると推定されました。昨年秋季(約4.3万トン)と比べて、約0.8万トン(19%)の減少、昨年春季(約3.1万トン)からは約0.4万トン(13%)の増加でした。令和4年秋から令和6年春にかけて急減(57%)した資源量でしたが、この一年では大きな変化はなく、ほぼ横ばい状態で推移しています(図2)。

表 ヤマトシジミの資源量

サイズ		重量 (トン)	個体数 (億個)
未成貝	殻長12mm未満	7,427	1,421
	殻長12mm以上17mm未満	5,506	58
成貝	殻長17mm以上(漁獲対象)	22,259	63
	成貝合計	27,765	121
全資源量		35,192	1,542

内訳をみると、漁獲対象となる殻長17mm以上のサイズは、約2.2万トン、63億個でした。これは、春季資源量調査の過去22年平均値(約1.8万トン)の124%で、令和6年春に大幅に減少して以降は、ほぼ同水準で推移しています。

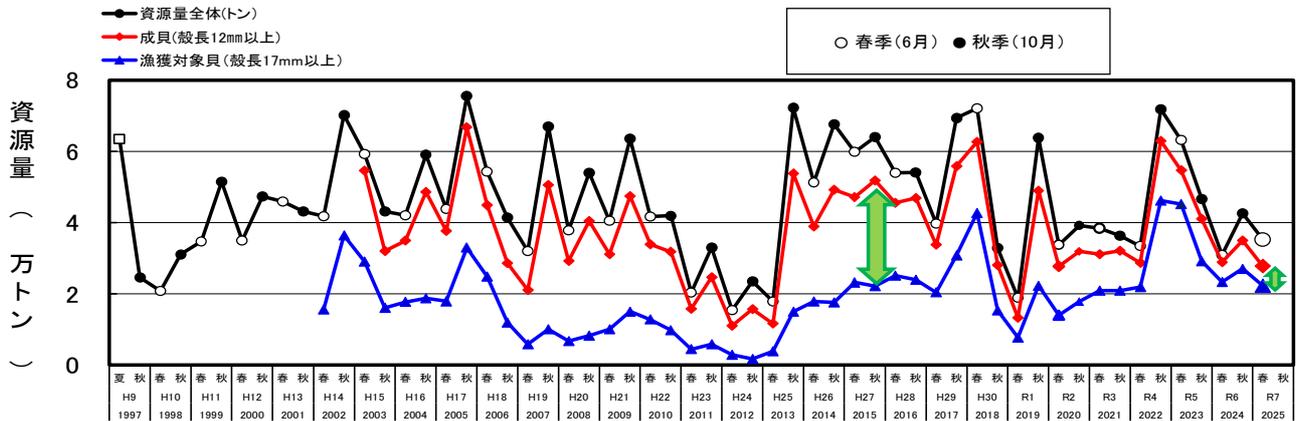


図2 宍道湖のヤマトシジミ資源量の推移

今後の見通し

漁獲対象資源重量は昨年春季に比べてわずかに減少(4%)したものの、過去22年平均の124%の水準を維持していました(図2青線)。宍道湖漁協では、令和4年秋から令和6年春にかけての12mm～17mmの小型成員の急減を機に、令和6年8月から機械搔き操業の漁具(ジョレン)の目合いを拡大(11mm→12mm)して、殻長17～19mmサイズのシジミの漁獲を軽減しています。この漁獲対象資源に対する管理対策開始以降、減少傾向は鈍化しましたが、その効果の評価には今後のデータの蓄積が必要です。

漁獲対象となる直前の小型成員(殻長12mm以上17mm未満)の個体数は、昨年秋季に比べると減少しました(図3緑枠部分)。また、重量についても令和4年秋以降は減少傾向にあり、資源全体が安定的に6万トン前後で維持されていた平成25年～28年と比べると格段に低くなっています[図2:成員(赤線)と漁獲対象員(青線)との差分、上下緑矢印]。現在のところ、漁獲量は高水準にある漁獲対象資源に支えられています。小型成員は過去最も低かった昨年春と同水準のままで、中期的な動向は予断を許せません。

一方で、未成員(殻長12mm未満)の個体数は、昨年春と比較すると著しい増加を示しており(図3:黄枠部分)、長期的には期待が持てる状況です。

今後も資源動向を注視するとともに、漁獲対象資源の計画的な利用が重要と考えています。

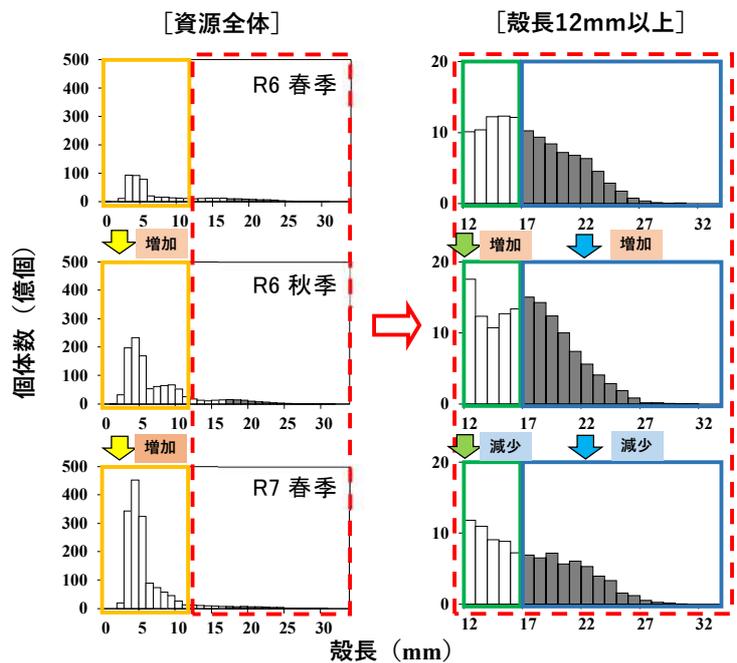


図3 宍道湖全域のヤマトシジミの殻長組成 (R6春季～R7春季 全調査地点の平均)

島根県水産技術センター 島根県浜田市瀬戸ヶ島町 25-1
 TEL:(0855)22-1720 FAX:(0855)23-2079
 ホームページ: <https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>
 E-mail: suigi@pref.shimane.lg.jp

